

表 2.10 クラック調査カルテ(クラック 14BL-1 その2)

水押し試験結果		水押しパターン		クラック幅の計測	
手前	中央	奥	項目	ポアホールカメラ観察結果	
<p>横側 (J13+1.0)</p>	—	—	調査箇所	ポアホール観察値 (クラック幅, mm, 距離, m)	
<p>中央 (J13+3.3)</p>	—	—	上流面調査結果	モニタリング調査 クラック幅0.3mm以上の範囲	
<p>アロックセンター (J13+7.5)</p>	—	—	クラックの範囲の推定	右岸側	左岸側
<p>【平面配置】</p>			項目	ポアホールカメラ観察結果	
<p>【断面配置】</p>			調査箇所	クラック幅	
<p>【打継ぎの状態】</p>			クラックの範囲の推定	右岸側	左岸側
<p>【評価区分】</p>			モニタリング調査結果	0.60	0~0.6
<p>クラック範囲と漏水経路の推定</p> <ul style="list-style-type: none"> クラック区分①に相当し、打継ぎ間隔 40 日、クラック幅 0.8mm のクラックである。 水膨張性の水平止水板が 1 列設置されている。 クラック幅は 0.8mm、クラック長は 9m であった。 			No.	0.30	0~0.1
<p>クラックの深度は、いずれもボーリング調査より 80cm 程度と推定され、止水板より手前である。</p> <p>クラックのほとんどの範囲がクラック区分 C であるが、その範囲は止水板より手前である。</p> <p>水押し試験結果では、いずれも表面筋からのリークのみであり、継目排水孔からの漏水は認められなかった。</p> <p>継目充水試験では漏水が認められた箇所であり、漏水経路としては、ボーリング調査結果を踏まえると、横継目から止水板に沿う経路が考えられ、継目充水試験ではこの経路からの漏水が表面のクラックに現れたものと考えられる。</p>			14BL-1	無	無
<p>クラック幅の計測</p>			14BL-1	0.30	0~0.1
<p>クラック幅の計測</p>			14BL-1	無	無